

等友

S
60
10
·
1
生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
浄土真宗
勝龍山
等覺寺
住職
朝倉馨

平成23年9月
第96号



東京教区2組B班

親鸞聖人750回御遠忌団体参拝

人は必ず死ぬのだから
いのちのバトンタッチがあるのです。

死に臨んで先に往く人が
「ありがとう」といえば
残る人が「ありがとう」と応える
そんなバトンタッチがあるのであるのです。

死から目をそむけている人は
見そこなうかもしれないが
目と目で交わす、一瞬の
いのちのバトンタッチがあるのであるのです。

青木新門氏の詩
「いのちのバトンタッチ」

住職から 一言

温壽院釋尼貞圓 坊守 朝倉 末子）に
まずは感謝の念仏合掌をいたします。

坊守 住職を助けお寺を維持するための
援助役）として懸命の努めを重ねてくれた
有難い一生でした。

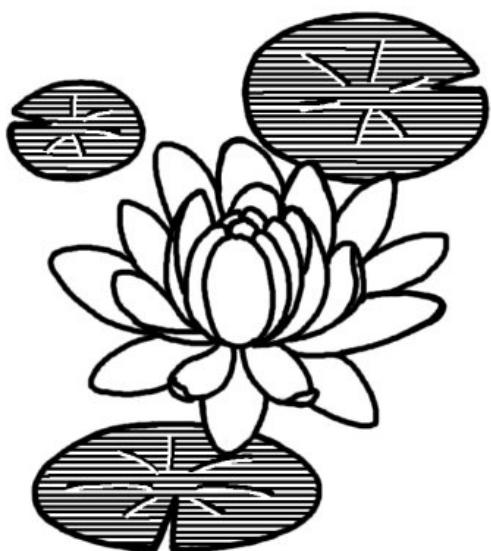
おだやかな毎日でしたが、ご門徒さんに何
か心配事をお聞きすると自分の事のよう
に心配し、住職に伝えてくれていました。と
ても心優しい人でした。
しみじみと有難い坊守だったと感謝して
おります。

最後になりましたが、通夜葬儀にはお忙
しい中大勢の方々にお参り頂き本当に有難
いことでした。この場を借りて御礼申し上
げます。

香

坊守の仕事は色々な意味で頭も体も人一
倍使う重労働だと思います。家族と共に愚
痴、泣き言をいわず八十九歳まで頑張つて
くれた有難さは唯々頭が下がり合掌するば
かりです。

お淨土ではご門徒様の仏様方とニコニコ
と語り合っている事だと思つております。
生前暗い顔イヤな顔は一切見たことがなく、



親鸞聖人七百五十回御遠忌

平成二十三年四月二十一日から一泊二日で、有志のみなさまと京都へ御遠忌の団体参拝に行つて参りました。

等覚寺を含め五ヶ寺合同の四十二名で本
山東本願寺の御遠忌法要に出席です。

東本願寺には全国から門徒が集まり、御影
堂は満堂で約三千人の人と一緒に同朋唱
和 みんなで一緒に口に出してお経を読
む）でお勤めいたしました。

法要ももちろん素晴らしいのですが、個人的に一番目を引いたのが、京都の町自体にも御遠忌の色が出ていたことでした。京都の市営バスも御遠忌期間中は親鸞聖人縁の地を結ぶ御遠忌専用のバスを特別に運行していたり、浄土真宗関連施設だけでなく、親鸞展をやっている京都市美

法要後は修復中の阿弥陀堂の瓦屋根の見学もでき、あらためて御影堂・阿弥陀堂の大ささを実感することができました。

その後ホテルに戻り、こちらも楽しみにしていた青木新門氏による講演会です。青木新門氏は、ご存知の方も多いと思いますが、映画「おくりびと」の原作、納棺夫日記」の作者の方。

お話は映画「おくりびと」が公開されるまでの糸余曲折や主演の本木雅弘さんとのエピソードを楽しく話していただいたのから始まり、青木氏ご自身が考えている宗教観や「いのち」のことまでお話ししていただきました。青木氏は富山ご出身で少しなりのあるやさしい口調で、とても聞きやすくてすぐに引き込まれていきました。

その中でも一番はつとさせていただいたお話を一つ簡単にご紹介させていただきます。

死を実際に見る、ということ

（二人の14歳の少年の話）

平成九年に起きた、さかきばらせいと名乗り殺人事件を起こしてしまったのは十四歳の少年でした。その事件の供述調書によると、なぜ人を殺したのかという質問に対し彼はこう語っていたそうです。

昨今は子ども達に人が死ぬ場を見せまい、死ということを語るまいという風潮がある。こういった社会が生んだのがこの子ではないか。

また、もう一人九州の十四歳の少年のお話もされました。

九州の浄土真宗の寺院に行つた時、ある文集をもらつた。その寺の檀家総代の人が亡くなるとき、家族全部17人を3日前から自分のまわりに置いて、自分の死にぎまを見せながら亡くなつた。その親戚が書いた文集である。

僕は家族のことはなんとも思わないが、おばあちゃんだけは大切な人だった。けれど小学校の時におばあちゃんは死んでしまつた。

大切なおばあちゃんを奪つた死ということ

その文集の中で感銘を受けたものがあり、それが14歳のお孫さんが書いたものだつた。

ぼくは、おじいちゃんからいろんなことを教えてもらいました。特に大切なことを教えてもらつたのは、おじいちゃんが亡くなる前の3日間でした。

今までテレビなどで人が死ぬと、まわりの人がとてもつらそうに、泣いているのを見て、なんでそこまで悲しいのだろうと思つていました。

しかし、いざ、ぼくのおじいちゃんが亡くなろうとしているところに、そばにいて、とても淋しく、悲しく、つらくて、涙がとまりませんでした。

そのとき、おじいちゃんはぼくに、ほんとうに人の命の尊さを教えてくださつたような気がしてなりません。

それに、最後にどうしても忘れられないことがあります。それはおじいちゃんの顔です。おじいちゃんの遺体の笑顔です。とてもおおらかな笑顔でした。いつまでもぼくを見守つてくださることを約束しておられるような笑顔でした。

おじいちゃん、ありがとうございました

この二人の違いは臨終の場にいた、五感で死を認識した死ぬ現場を見たか見てないか、だけの違いです。今の平和の時代、頭でしか死を認識していない。

昨今は死ぬということから遠ざかる風潮があるが、そうではないんです。死を五感で感じることが大切なんです。

私たちには東日本大震災で多くの人の死を五感で感じることができたのではないかと思ひます。実際にこれまで無縁社会だと危惧してきた日本が、大震災を境にお互いが支え合う有縁社会になつたのです。

青木新門氏のお話より抜粋)

このお話を聞いてはつとしました。

同じ十四歳の少年でも死を見ていない、というだけで過ちを犯してしまった可能性がある。しかも親は良かれと思って、子どもを死から遠ざけてしまうのではないかと。

※過去のある東京都のアンケートでは、葬儀に参列したことのある子どもは7割8割いたが、臨終の場に立ち会つたことがある子どもは5パーセントに満たないという。

二日目。

外を眺めると曇り空・・・天気の心配をしつつ出発します。

まずは京都市美術館にて親鸞展を観覧です。

親鸞展では浄土真宗・親鸞聖人による国宝や重要文化財など数多く出品されておりました。

やはりこちらも人気でかなり混み合つていたため、あらためてゆっくり見たいな、と思いました。



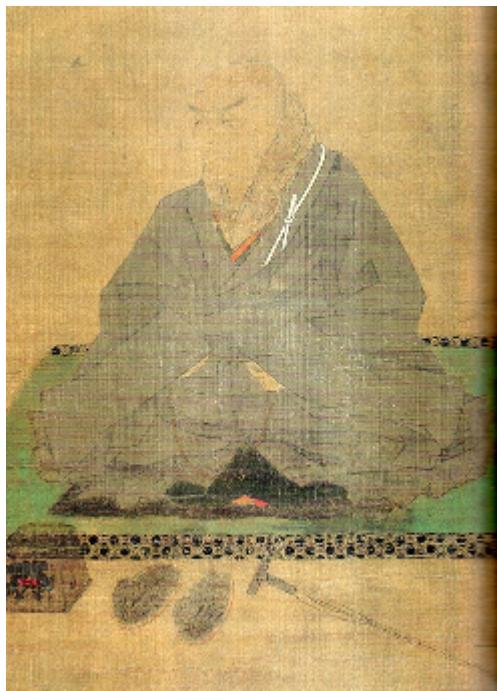
親鸞聖人筆 正信偈

その後昼食は南禅寺の近くにある「順正」というお店で、湯豆腐をいただきました。やはり京都といえば湯豆腐でしょう、食べてみると、お豆腐自身の味、大豆の香りが口の中いっぱいに広がってきます。お座敷にならんでみんなで一緒にご飯を食べ、他のお寺の門徒さんたちとも親睦が深まり、楽しいお昼でした。

しかし、窓の外からザーっという大きな音が・・・湯豆腐を食べてる最中に、それまでなんとか持ちこたえていた天気がついに崩れ、雨が降ってきてしまいました。なんとドシャブリです。。。

冷たい雨が降りしきる中、西本願寺への参拝。今回は特別に内部までご案内いただき、国宝の建物や門等を見学することができました。西本願寺もやはりいいものですね。西本願寺はあまり焼失してな

いので建物の歴史が古く、桃山文化を色濃く残す屏風やふすま、柱や壁にいたるまで、すべてのものが赴きがあり、豊臣秀吉が同じ廊下を通ったのかな、などと勝手な感慨に浸ることもできました（笑）



親鸞聖人絵像 安城の御影



親鸞聖人筆
六字名号

誰一人ケガ・病気もなく無事に帰つてく
ることができた御遠忌団体参拝。

本山に上山し、人であふれかえつた満堂
の御影堂という一つの場所で、同じお勤
めを多くの人とともにすることで、あら
ためて、自分と同じように真宗の教えに
出遭つてその教えに生きている人々がい
るんだということを目の当たりにするこ
とができました。

今回は五十年に一度という大変大きな
行事でしたが、みなさんもぜひ本山であ
る京都の東本願寺に足を運んでみてはい
かがでしょうか。全国一万数千ヶ寺の真
宗大谷派寺院の本山であり、教えを脈々
と発信してきたお寺ですから実際に訪れ
てみると何か五感で感じるものがあるか
かもしれませんよ。



御遠忌イメージキャラクター
鸞恩(らんおん)くん



東本願寺(上)と西本願寺(下)

坊守葬儀

平成二十三年三月二十四日に当山坊守朝倉末子（温寿院釋尼貞圓）の通夜葬儀を執り行いました。

通夜葬儀にあたり、多くの皆様には、会葬いただいたいたこと、お世話になりましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

私共の祖母である坊守は、今までほ
まつたくの病気知らずで健康だったの
ですが、昨年末あたりから急に体調が崩
がちになり、今年初めの検査で胃がんが
見つかりました。その時にはすでに手遅
れで、家での療養後三月十七日にお淨土
へ還りました。

幸いにも家族のものもみな、死に目に
遇えて、祖母の身をもつたいのちの教え

という最後のプレゼントをありがとうございました。

これからはあらたな等覚寺のスタート
です。これからも皆様と一緒に歩んでい
きたいと思 いますので、変わらぬご支援
をよろしくお願 いいたします。

東日本大震災義援金

みなさまのご協力で、東日本大震災の
義援金を本山である東本願寺を通じて、
八万五千八百六十円寄付させていただき
ました。ありがとうございました。

また、義援金箱はこれからも設置させて
いただきますので、引き続き東北地方へ
のご支援をお願いいたします。

お墓のあれこれ

お墓ってなんだろう、って思つたことあるのではないでしようか。お墓はお骨を収める場所、先祖の靈を慰めるために建てる、いろいろ考えがあります。しかし、私たち浄土真宗ではお墓というのは、むしろ逆なんです。

ご覧になつたことがある方もいると思いませんが、浄土真宗の昔からのお墓には基本的には「○○家之墓」ではなく「南無阿弥陀仏」と彫られています。これはここに故人が眠つていることを表すのではなく、阿弥陀如来のお力で浄土に還らせていたいたとすることを表しているためです。

ではお墓は何のためにあるのでしょうか。

お墓は、ご先祖あるいは故人の居場所や、必要とするからあるのではなく、私たちがご先祖・故人への感謝や敬いから建てるのです。さらに言えば、かけがえのない命の教えを私たちに伝えてくださったご先祖に感謝しつつ、「その命を一生懸命に生きてほしい」という「ご先祖から私たちへの願いをあらためて聞く場でもあります。

こういったことがお墓の意味なのです。ただ、みんなさんのお参りする気持ちが何よりも大切ですので、頭の片隅にでも置いておいていただければ幸いです。

ところで、お墓はみなさんからの維持費で管理しております。お墓の維持費を納め忘れてらっしゃる方はいませんか？心当たりのある方はお墓参りの際にご確認いただけますので、お気軽にお話し下

100%

中には遠方やお身体の調子など、なかなかお参りにいらっしゃりづらい方も多くかと思います。

そのような方も「相談に乗りますので、まずは一度お電話等でご連絡下さい。

二 披露

等友へのご懇意

栗原様 高橋様 山本様 新井様 小林様

鳴海様
仮具^{ハマツ}
順不同^{スムリドウモン}

いつもご支援いただきまして、誠にあり

がどうござります。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております

申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただ

きたいと思いま

編集後記



今年の夏は例年よりも少しで酷暑となつて
いましたが、やつと一段落してきました
ね。

今回は四月に行つた団体参拝の様子を中心にお伝えさせていただきました。

ちょっと文章力が無く、小学生の作文の
ようになってしまったのはさう愛嬌といつ
いとで・・・

サイ。

れの代わりとしていたのですが、七回

五十回御遠忌を記念し、マンガ・ストラ
グ・シルクやバガボンズなどの人気作品の
作者である井上雄彦氏が2枚の巨大な屏
風に墨絵で親鸞聖人の姿を描れ、本山に
寄贈されました。

その屏風のレプリカを等覚寺内に飾りま
したので、ぜひお参りの際にぜひ覗いて
なつてみて下さり。

廊下に立派な机と帳を掛けたか
らお入り下さい

平成二十三年行事予定

十月二十三日(日) 報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、
お気軽にご参加ください。

平成二十三年年回表

一周忌	平成二十二年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十七年
十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成七年
二十三回忌	平成元年
二十七回忌	平成二十二年
三十三回忌	平成二十二年
三十七回忌	平成二十二年
四十三回忌	平成二十二年
四十七回忌	平成二十二年
五十回忌	平成二十二年
七十四回忌	平成二十二年
百回忌	平成二十二年

☆お問い合わせ

info@tokakuji.com

☆お問い合わせ

等覚寺ホームページ

<http://www.tokakuji.com>